

第35回

全日本篆刻連盟役員展

— 朱白の美・方寸の世界 —



<参考作品>上二段：第35回（2022）全日本篆刻連盟展から
下二段：故 河野 隆 作品（篆刻美術館）

この度、篆刻美術館では かわの たかし 河野 隆（1948～2017）の作品をご寄贈いただきました
このことを記念して新収蔵品の中から約15点を併せて紹介します

2025

10/28_{tus} - 12/7_{sun}

開館時間 | 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 | 月曜日(祝日の場合はその翌日)、11/25(火)～28(金)

入館料 | 一般200(150)円、小中高生50円、三館共通券600円

※()内は20名以上の団体料金

※三館共通券は篆刻美術館・古河歴史博物館・古河文学館の三館を観覧できる
共通券です

篆刻美術館

【連絡先】

〒306-0033

茨城県古河市中心街2-4-18

TEL. 0280-22-5611

FAX. 0280-22-5915





こが 古河市のランドマーク 「石蔵」と「^{てんこく}篆刻」

当館は平成3年(1991)に日本初にして唯一の篆刻専門の美術館として開館しました。大正時代に建築された石蔵は国登録有形文化財です(平成10年登録)。伝統に基づく文字の歴史を石に刻む「篆刻」と「石蔵」が結びつき、古河のランドマークになっています。

篆刻とは印章から発展したもので、漢字の古い書体である篆書を石や木などに刻し、朱色の印泥を付けて紙に捺したものを鑑賞します。当館では、古河出身の生井子華(1904-1989)の作品を中心に作品を収蔵・展示しています。

交通のご案内

電車 | JR 宇都宮線古河駅西口から徒歩約8分
東武日光線新古河駅から徒歩約25分
古河市循環バスぐるりん号西コース
「22 篆刻・街角美術館」下車

自動車 | 東北自動車道久喜ICより約40分
加須IC・羽生IC・館林ICより約30分
圏央道境古河IC・五霞ICより約30分

※駐車場は篆刻美術館より道路を挟んだ向かい側にございます

「^{てんこく}全日本篆刻連盟」と「^{こが}古河市」

全日本篆刻連盟は、古河市出身の篆刻家 生井子華(1904-1989)にゆかりのある団体です。昭和54年(1979)に小林斗盞(1916-2007)の提唱により発足された「日展篆刻作家展」を前身とし、篆刻の普及と会員相互の親睦を図り、研究会・見学会・展覧会などの行事を行うことを目的に設立されました。平成3年(1991)、篆刻美術館の開館の折には小林斗盞氏に多大なご支援とご協力を賜りました。その後、同氏は平成16年(2004)に篆刻界から初の文化勲章を受章しています。

篆刻美術館は、令和8年(2026)に開館35周年を迎えます。当館主催の「全日本篆刻連盟役員展」も同じ回数歩を進めてまいりました。したがって、本展は開館当初から続く展覧会として、その時代の篆刻界を代表する篆刻家の珠玉の作品をとおして、伝統に基づく篆刻の「今」を展覧し、篆刻の普及につとめています。

ぜひこの機会にご鑑賞いただき、篆刻芸術に触れる機会になれば幸いです。



篆刻美術館マスコットキャラクター ^{こくり}刻狸

ミュージアムキャラクターアワード2023
グランプリ獲得

